



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日中戦争期における駐米大使胡適の講演活動の研究
Author(s)	猪野, 慧君
Citation	研究論集, 11, 169(左)-197(左)
Issue Date	2011-12-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47878
Type	departmental bulletin paper
File Information	10_RONSHU_11_IN0.pdf



日中戦争期における駐米大使胡適の 講演活動の研究

猪 野 慧 君

要 旨

日中戦争期の米国における胡適の講演の旅程や回数について、これまでの研究は、いずれも胡適が1942年5月17日に友人の翁文灝や王世傑に宛てた「一万六千マイルの旅程で、講演は百余回」という手紙に基づく。しかし、胡適の講演が実際は、何回で、いつ、どこで、誰に対して行われたかについては、一つ一つ裏付けをとって統計的に分析した研究は無いようである。そこで、筆者は現在確認できる資料を基に、胡適の国民使節および駐米大使としての講演活動の全貌を明らかにする。

講演活動に関する資料を整理し考察した結果、次のようなことが分かった。

胡適が1937年9月23日から1942年9月18日までに行った講演は、確認できる限りで236件あった。講演を基にした雑誌掲載論文は35篇、その他に論文のみ掲載されたものは34篇にのぼる。1937年9月から国民使節となり、実際にアメリカに滞在した9ヶ月間で、行った講演件数は96件あった。また帰国途中(1938年8月)に経由したイギリスでも4件講演を行い、国民使節としては都合100件を数える。特に1938年1月25日からアメリカを離れる1938年7月11日までに集中している(78件、のべ84回以上)。1938年9月に駐米大使に着任してから、1940年6月26日に宋子文がアメリカに来るまでの1年9ヶ月間は、外交任務に忙しく従事しながら行った講演件数は56件で比較的少ない。その後、1942年9月大使離任までの約2年間は、また講演件数が多くなり80件であった。

胡適の講演の対象者は、様々な層に及ぶが、国会、州議会などの政治界の要人、銀行リーダーなどの商業界の要人もいれば、市民団体、宗教団体、中国の抗日戦争の支援団体などの一般市民もいる。新聞記者、ラジオなどのメディア関係者や、在米の中国人や中国学生もいる。また、大学教員や大学生などに向けて行なったものが比較的多い。アメリカ国民向けのラジオ放送は少なくとも16件はあった。胡適が講演を行った場所は、主にアメリカの東海岸と西海岸に分布しているが、特に、ニューヨーク、ワシントン、ミシガン、

カリフォルニア、ペンシルバニア、マサチューセッツが多い。また、カナダも西から東まで広範囲に及ぶ。講演の内容は主に、①九国条約(世界新秩序、国際新秩序、新国際主義、新世界道徳)、②自殺愚行、③福奇谷作戦(Valley Forge)、④苦撑待变、⑤為世界作戦、為民主国家作戦、⑥民族生存・抵抗侵略、⑦米国の国際的リーダーシップ、⑧日本の侵略行為、という8つのキーワードまたは話題に重点を置いている。

はじめに

日中戦争期の米国における胡適の講演の旅程や回数について、これまでの研究は、いずれも胡適が1942年5月17日に友人の翁文灝や王世傑に宛てた「一万六千マイルの旅程で、講演は百余回(旅行一万六千英里、演講百余次)」*1という手紙に基づく。例えば、胡適の講演活動を詳細に研究した張忠棟氏は『胡適五論』(稻郷出版社、2005年6月11日、p.138)でこの手紙を引用するが、一方で、唐徳剛が「万里の道を行き、講演百回(行万里路、演百余講)」という胡適の活動を、安徽農民の諺で「魚やえびをすくい、農作業を遅らせた(撈鱼摸虾, 耽误庄稼)」と批判したことにも言及する(同p.112)。莫高義氏は『書生大使—胡適出使美国研究』(広東人民出版社、2006年5月、p.186)で、この手紙の他に、「全米の各地に行き、講演四百回(赴全美各地演讲400次之多)」という胡適の回想も引く。また、日本の緒形康氏は「記憶は抵抗する—駐米大使、胡適の抗日戦争—」(『現代中国研究』第12号、中国現代史研究会、2003年3月30日、p.19)で、「果たして大使職在任最後の1942年、胡適は1万6千キロの行程を物ともせず、100回を超える講演という過密スケジュールをこなしている。」と言及する。しかし、これら先行研究は胡適の言葉に拠って講演回数の概数を言うだけなので、実際は何回で、いつ、どこで、誰に対して行われたかについて一つ一つ裏付けをとって統計的に分析した研究はまだ無いようである。そこで、筆者は現在確認できる資料を基に、胡適の国民使節および駐米大使としての講演活動の全貌を明らかにしたい。

一、講演活動の全貌

以下に、胡適の国民使節および駐米大使としての講演活動を、a:時間 b:場所 c:タイトル d:対象者 e:出典・根拠 f:備考という6項目に整理して、日時順に列記する。なお、「e:出典・根拠」には略称を用いる。すなわち、「日記」は曹伯年整理『胡適日記全集』(聯経出版公司、2004年)、「年譜五」は胡頌平編著『胡適之先生年譜長編初稿』第五冊(聯経出版事業公司、1984年)、「胡先生傳」は胡不埏『胡適之先生傳』(1941年12月)、「西文目録」は季維龍

*1 胡頌平編著『胡適之先生年譜長編初稿』第五冊、聯経事業公司、p.1777を参照。

編『胡適著訳系年目録』（安徽教育出版社，1995年8月）所収「胡適西文著作目録」（もと EUGENE L・DELAFFELD・袁同礼編『胡適先生西文著作目録』，中央研究院歴史語言研究所，1963年），「全集」は季羨林主編『胡適全集』（安徽教育出版社，2003年9月）を指す。

また「f：備考」で「キー①②」などとしているのは，後述する①～⑧のキーワードまたは話題に言及していることを示す（ただし，講演内容が確認できるもののみ）。出典・根拠となる資料で確認できた講演件数を計算する便宜のために先頭に通し番号を附し，本稿ではその各件番号を「講演 No.」と呼ぶこととする。

- 1). a：1937年9月23日夕飯後8時； b：ホノルルの Dillingham Hall； c：不明； d：太平洋問題調査の関係者； e：日記，東京朝日新聞昭和20年9月25日号外； f：；
- 2). a：1937年9月26日昼食後； b：サンフランシスコ大中華戲院； c：支那抗戦の意義と将来； d：在米中国人； e：東京朝日新聞昭和20年9月28日，日記，年譜五 p.1616，胡先生傳 p.103； f：キー④⑥⑧，「支那抗戦の意義と将来」（『文藝春秋』1938年1月 pp. 436-442.）；
- 3). a：1937年9月29日ランチ； b：サンフランシスコ，Commonwealth Club； c：Can China Win； d：Commonwealth Club 出席者； e：日記，全集第37巻； f：；
- 4). a：1937年9月30日朝食； b：University of California； c：不明； d：University of California 関係者； e：日記； f：；
- 5). a：1937年10月1日； b：サンフランシスコ Columbia ラジオ局； c：What China Expects of America in the Present Crisis； d：アメリカ国民； e：日記，年譜五 p.1617，全集第44巻 p.123； f：キー⑥⑦，後に *The Far Eastern Magazine*, Vol. 1, No. 1 November, 1937. pp. 14-16. に掲載（西文目録171号）；
- 6). a：1937年10月18日； b：ワシントン； c：不明； d：四十人の工商業，銀行のリーダー（Thomas Lamont）； e：日記； f：；
- 7). a：1937年11月3日； b：ブリュッセル； c：不明； d：「九国公約会議」会議出席者； e：年譜五 p.1620； f：；
- 8). a：1937年11月10日； b：ニューヨーク外交政策協会（Foreign Policy Association）； c：不明； d：ニューヨーク外交政策協会の会議出席者； e：西文目録172号，全集第44巻 p. 122； f：西文目録に Address delivered at Foreign Policy Association, New York, N. Y., November 10, 1937. In: *China References Sreies* (New York), Vol. 2, January 1938. pp. 57-60. とある；
- 9). a：1937年11月13日； b：ニューヨーク外交政策協会（Foreign Policy Association）； c：極東衝突の背後にある問題（The Issues Behind the Far Eastern Conflict）； d：ニューヨーク外交政策協会の会議出席者； e：年譜五 p.1620； f：キー①⑤⑥，後に New York,

China Institute in America, 1938. 8 p.に掲載（西文目録34号）；

- 10). a: 1937年12月9日； b: ワシントンの「女性記者クラブ」； c: 不明； d: ワシントンの「女性記者クラブ」の記者； e: 胡先生傳 p.103, 年譜五 p.1624； f: キー⑤⑥；
- 11). a: 1937年12月13日； b: アメリカ「外交政策協会」ニューヨーク阿士打ホテル； c: 不明； d: 「極東戦事に関する討論会」参加者； e: ニューヨークタイムズ 1937年12月14日； f: キー⑥⑧, 胡適と対抗したのは日本大阪「毎日」と「日日」両新聞の編集者高石眞五郎；
- 12). a: 1938年1月3日； b: ニューヨーク, Professor Mrs. Vladimir Gregoriver Simkhoviich らが設立した Green House； c: 不明； d: Professor Mrs. Vladimir Gregoriver Simkhoviich ら； e: 日記； f: ；
- 13). a: 1938年1月4日； b: ニューヨーク, Guaranty Trust； c: 不明； d: G. T. Co. の銀行家全部で19人, その中の一部はMorgan系列の人； e: 日記； f: ；
- 14). a: 1938年1月10日； b: Cleveland, Hotel Cleveland； c: China's Struggle for Freedom； d: Foreign Relations Council's 会の500人； e: 日記； f: ；
- 15). a: 1938年1月11日十二時； b: Oberlin, Oberlin の礼拝堂； c: 不明； d: 不明； e: 日記； f: ；
- 16). a: 1938年1月11日午後4時半； b: Oberlin； c: The war in China&the Issues Involved； d: 不明； e: 日記； f: ；
- 17). a: 1938年1月14日夜7時； b: Washington, D. C.； c: Education for Peace or War； d: Association of Progressive Education の年会宴会出席者； e: 日記； f: ；
- 18). a: 1938年1月18日夜； b: ニューヨーク, Quill Club； c: 不明； d: Quill Club には社会上の要人も多く, Col. Olive, F. Allen, Wm. I. Schieffelin ら； e: 日記； f: ；
- 19). a: 1938年1月25日6時； b: Ann Arbor, Michigan Union； c: 不明； d: Dinner Meeting of the Division of the Social Sciences 出席者； e: 日記； f: ；
- 20). a: 1938年1月26日昼頃； b: Ann Arbor, Rotary Club； c: Chinese Youth； d: Rotary Club 関係者200人余り； e: 日記； f: ；
- 21). a: 1938年1月26日4時； b: Ann Arbor, Michigan 大学； c: Democracy or Fascism in China； d: Michigan 大学関係者； e: 日記； f: ；
- 22). a: 1938年1月27日； b: Chicago の "American Friends of China" の茶会； c: Can China Survive； d: 茶会出席者； e: 日記； f: 後に *Forum and Century*, Vol. 97, No. 1. January 1937. pp.39-44 に掲載（西文目録83号）；
- 23). a: 1938年1月30日晚餐； b: Chicago, International House； c: Some Permanent Aspects of Chinese Civilization； d: 不明； e: 日記； f: ；
- 24). a: 1938年1月31日； b: Minneapolis； c: 不明； d: Foreign Policy Association 主

席の Phillip S. Duff の会の会員； e：日記； f：；

- 25). a：1938 年 1 月 31 日夕方 5 時； b：Minneapolis； c：The Issues Involved in the War；
d：Foreign Policy Association の晚餐会出席者 200 人余り； e：日記； f：；
- 26). a：1938 年 2 月 1 日昼頃； b：Minnesota, University of Minnesota； c：不明； d：
Professor Harold S. Quigley, University of Minnesota の教職員，代理学長，研究院長及び教
授など 20 人余り； e：日記； f：；
- 27). a：1938 年 2 月 1 日 3 時半； b：Minnesota, University of Minnesota； c：Nationalist
China； d：University of Minnesota 関係者； e：日記； f：；
- 28). a：1938 年 2 月 4 日； b：Spokane, Eastern Washington College of Education； c：
Conditions in China； d：Eastern Washington College of Education 関係者； e：日記；
f：；
- 29). a：1938 年 2 月 4 日昼食後； b：Spokane, Lewis&Clark High School； c：不明；
d：2200 人の学生； e：日記； f：；
- 30). a：1938 年 2 月 4 日夜 7 時 50 分； b：Spokane, Civic Hall； c：Issues Involved in the
War； d：一般市民 1000 人； e：日記； f：；
- 31). a：1938 年 2 月 5 日昼； b：Spokane； c：不明； d：Spokane の商学宗教界の幹部二
十数人； e：日記； f：；
- 32). a：1938 年 2 月 5 日夜； b：Spokane のラジオ局； c：不明； d：ラジオ局聴衆；
e：日記； f：；
- 33). a：1938 年 2 月 6 日夜； b：Spokane, Central Methodist Church； c：不明； d：来
場者の 1200 人； e：日記； f：；
- 34). a：1938 年 2 月 7 日 4 時； b：Seattle の University of Washington； c：Issues Behind
the Far Eastern Conflict； d：University of Washington 関係者； e：日記； f：；
- 35). a：1938 年 2 月 8 日； b：Bellingham の Washington College of Education； c：不
明； d：Washington College of Education 関係者； e：日記； f：；
- 36). a：1938 年 2 月 8 日夜； b：Bellingham の Puget Sound Group of the Institute of Pacific
Relations の晚餐会； c：不明； d：来場者の 60 数人； e：日記； f：；
- 37). a：1938 年 2 月 9 日昼； b：Bellingham の Sunset Club； c：不明； d：Sunset Club
という婦人会来場者； e：日記； f：；
- 38). a：1938 年 2 月 9 日； b：Bellingham の China Club； c：不明； d：在米中国人
300 人余り； e：日記； f：；
- 39). a：1938 年 2 月 10 日 11 時； b：Bellingham の Faculty Club, Research Club； c：
Research work in China； d：来場者は主に大学の教授； e：日記； f：；
- 40). a：1938 年 2 月 10 日夜； b：Tacoma の Foreign Affairs Forum の晚餐会； c：不明；

- d: Von Brevern, Martin および Foreign Affairs Forum の晩餐会の来賓は 295 人で、食事後、さらに 150 人が集まり； e: 日記； f: ；
- 41). a: 1938 年 2 月 11 日； b: Tacoma の Moore Theatre； c: 不明； d: China Club が主催した Mass meeting 出席者； e: 日記； f: ；
- 42). a: 1938 年 2 月 12 日ランチ； b: Reed College； c: 不明； d: Reed College でランチの出席者； e: 日記； f: ；
- 43). a: 1938 年 2 月 12 日夜 6 時半； b: Portland, University Club, Reed College； c: 不明； d: Reed College 関係者； e: 日記； f: ；
- 44). a: 1938 年 2 月 16 日夕食後； b: サンフランシスコ, Berkeley の Wheeler Auditorium-de； c: Scientific Research in China； d: 700 人出席者； e: 日記； f: ；
- 45). a: 1938 年 2 月 18 日 10 時； b: Los Angeles, Univ. of Southern California； c: 不明； d: 大学関係者 2000 人； e: 日記； f: ；
- 46). a: 1938 年 2 月 18 日 12 時； b: Los Angeles, University Club； c: 不明； d: 大学関係者； e: 日記； f: ；
- 47). a: 1938 年 2 月 18 日 4 時； b: Los Angeles, Pomona College のホール； c: 不明； d: 一般市民； e: 日記； f: ；
- 48). a: 1938 年 2 月 19 日； b: Los Angeles, Pasadena； c: For a Better World Order； d: World Affairs Assembly の大宴会の来場者は 600 人余り； e: 日記； f: ；
- 49). a: 1938 年 2 月 20 日ランチ； b: Los Angeles； c: 不明； d: 華僑； e: 日記； f: ；
- 50). a: 1938 年 2 月 23 日午後 1 時 15 分； b: B. C. の Victoria； c: 不明； d: The Left Book Club の来場者は約 40 人； e: 日記； f: ；
- 51). a: 1938 年 2 月 23 日夜食後； b: Victoria, Canadian Institute of International Affairs； c: The Issues Behind the War； d: Canadian Institute of International Affairs 出席者； e: 日記； f: ；
- 52). a: 1938 年 2 月 24 日夜 8 時 15 分； b: Vancouver, Dean F. の家； c: China Today； d: C. I. I. A. の会の来場者 60 人； e: 日記； f: ；
- 53). a: 1938 年 2 月 27 日午後 3 時； b: Edmonton, Institute of International Affairs； c: 不明； d: Institute of International Affairs 来場者は約 40 人； e: 日記； f: ；
- 54). a: 1938 年 2 月 27 日 6 時； b: Edmonton, “Purple Lantern”； c: 不明； d: 華僑の来場者が 250 人； e: 日記； f: ；
- 55). a: 1938 年 2 月 28 日夜 6 時半； b: Saskatoon； c: 不明； d: C. I. I. A. の晩餐出席者； e: 日記； f: ；
- 56). a: 1938 年 3 月 2 日夜； b: Winnipeg, Canadian Institute； c: 不明； d: 不明；

e: ; f: ;

- 57). a: 1938 年 3 月 3 日昼; b: Winnipeg, Canadian Club; c: 不明; d: Canadian Club ランチ出席者 500 人; e: 日記; f: Free Press に G. V. Ferguson が私との談話を掲載した。タイトルは "A Voice From China";
- 58). a: 1938 年 3 月 5 日 2 時 5 分; b: Hamilton の McMaster University (Baptist) の International Relations Club; c: 不明; d: 不明; e: 日記; f: ;
- 59). a: 1938 年 3 月 5 日; b: Hamilton Club の Canadian Institute; c: 不明; d: 不明; e: 日記; f: ;
- 60). a: 1938 年 3 月 7 日 6 時前; b: London, Ont.; c: 不明; d: C. I. I. A. の夕食の出席者; e: 日記; f: ;
- 61). a: 1938 年 3 月 8 日夜 6 時; b: Windsor, C. I. I. A.; c: 不明; d: C. I. I. A. 会食の出席者; e: 日記; f: ;
- 62). a: 1938 年 3 月 9 日昼; b: Toronto の Canadian Club; c: 不明; d: Canadian Club 会食の出席者 500 人ほど; e: 日記; f: ラジオ放送もあった;
- 63). a: 1938 年 3 月 10 日昼; b: Montreal の Canadian Club; c: 不明; d: 不明; e: 日記; f: ;
- 64). a: 1938 年 3 月 10 日夜 7 時; b: Montreal の C. I. I. A. の晩餐会; c: 不明; d: C. I. I. A. の晩餐会出席者; e: 日記; f: ;
- 65). a: 1938 年 3 月 11 日夜 7 時; b: Ottawa の Rideau Club の Canadian Institute of Int. Affairs の晩餐会; c: 不明; d: Canadian Institute of Int. Affairs の晩餐会出席者; e: 日記; f: ;
- 66). a: 1938 年 3 月 12 日 1 時; b: Ottawa の Canadian Club; c: 不明; d: 来場者は多く, Prime Minister McKenzie King (総理) も来た。女性議員 Miss McPhail も議員資格で会議に臨席; e: 日記; f: ;
- 67). a: 1938 年 3 月 15 日; b: Ithaca, Miss Gaskill の中国史クラス; c: 「宋儒」の話; d: Miss Gaskill の中国史クラス学生; e: 日記; f: ;
- 68). a: 1938 年 3 月 16 日昼食後; b: Law School; c: Recent Discoveries of New Materials for Chinese History; d: Ithaca, Law School 学生; e: 日記; f: この度の旅程 (1 月 25 日から 3 月 16 日まで) は全部で 51 日, 56 回の講演。アメリカ国内 38 回, カナダ国内 18 回 (日記にその内訳が記されている)。

アメリカ	アナーバー (Ann Arbor)	4
	シカゴ (Chicago)	2
	ミネアポリス (Minneapolis)	5
	スポーカン (Spokane)	7

	シアトル (Seattle)	
	ベリングガム (Bellingham)	9
	タコマ (Tacoma)	
	ポートランド (Portland)	2
	サンフランシスコ (S. F.)	1
	ロサンゼルス (Los Angeles)	6
	イサカ (Ithaca)	2
	(計)	38
カナダ	ビクトリア (Victoria)	2
	バンクーバー (Vancouver)	1
	エドモントン (Edmonton)	2
	サスカトゥーン (Saskatoon)	1
	ウィニペグ (Winnipeg)	2
	ハミルトン (Hamilton)	2
	ロンドン (London)	1
	ウィンザー (Windsor)	1
	トロント (Toronto)	2
	モントリオール (Montreal)	2
	オタワ (Ottawa)	2
	(計)	18

- 69). a: 1938 年 3 月 17 日夜; b: Ithaca, 中国学生会; c: 不明; d: 中国学生; e: 日記; f: 「これが、私のこの度の第 57 回目の演説となった」;
- 70). a: 1938 年 3 月 31 日夜 10 時; b: Philadelphia の College Chinese Scholarship Committee の晩餐会; c: 不明; d: College Chinese Scholarship Committee の晩餐会出席者; e: 日記; f: ;
- 71). a: 1938 年 4 月 1 日夜 8 時 15 分; b: Philadelphia の American Academy of Social & Political Science 年会; c: To Have not and Want to Have; d: American Academy of Social & Political Science 年会出席者; e: 日記; f: 後に *The Annals of the American Academy of Political and Social Science*, Vol. 198, pp.59-64. に掲載 (西文目録 88 号, 年譜 五 p.1631);
- 72). a: 1938 年 4 月 7 日晚; b: ニューヨーク, American Bureau for Medical Aid in China の晩餐会; c: 不明; d: American Bureau for Medical Aid in China の晩餐会出席者; e: 日記; f: ;
- 73). a: 1938 年 4 月 23 日夜; b: Philadelphia の American Philosophical Society の年会の

- 宴会； c：Scientific Method and International Understanding； d：American Philosophical Society の年会の宴会出席者； e：日記； f：；
- 74). a：1938 年 4 月 28 日； b：ニューヨーク, Smith College Club； c：The Chinese Renaissance； d：Smith College Club 出席者； e：日記； f：；
- 75). a：1938 年 5 月 3 日夜 8 時半； b：Framingham, Wellesley College； c：China's National Unity； d：学生； e：日記； f：；
- 76). a：1938 年 5 月 4 日夕食後； b：ニューヨークの International House； c：五四の物語及びその意義； d：不明； e：日記； f：；
- 77). a：1938 年 5 月 12 日夜 7 時； b：ニューヨーク, Shelton Hotel； c：不明； d：協和医学校の会食来場者 200 人； e：日記； f：；
- 78). a：1938 年 5 月 12 日夕食後 8 時； b：Richmond, Ind. の Institute of Foreign Affairs の会場； c：The Cultural Background of the Sino-Jap. Conflict； d：Institute of Foreign Affairs 出席者； e：日記； f：日本大使館の参事 Suma 須磨が日本の立場を講演した；
- 79). a：1938 年 5 月 14 日夜； b：Richmond, Institute of Foreign Affairs の会場； c：Issues behind the Conflict； d：Institute of Foreign Affairs 出席者； e：日記； f：；
- 80). a：1938 年 5 月 16 日 2 時； b：Cincinnati, Univ. Union； c：不明； d：Univ. Union 関係者； e：日記； f：；
- 81). a：1938 年 5 月 26 日夜 11 時 15 分； b：ニューヨークの WOR ラジオ局； c：不明； d：アメリカ国民； e：日記； f：；
- 82). a：1938 年 6 月 2 日； b：ニューヨーク, Dalton School； c：Values to be Cherished； d：学生； e：日記； f：；
- 83). a：1938 年 6 月 4 日； b：ニューヨーク, International House の高麗学生年会； c：不明； d：高麗学生年会関係者； e：日記； f：；
- 84). a：1938 年 6 月 24 日午後 8 時； b：ニューヨーク, 唐人街； c：不明； d：現地で生まれた中国男女青年； e：日記； f：；
- 85). a：1938 年 6 月 24 日 10 時； b：ニューヨーク Columbia Broadcasting Network； c：What can America Do in the Far Eastern Situation； d：不明； e：日記； f：後に *IBID*, Vol. 2, No. 6. August 1938. pp.293-295. Also in: *The China weekly Review*, Vol. 86. September 24, 1938, pp.106-107. に掲載（西文目録 90 号）；
- 86). a：1938 年 6 月 27 日午後； b：Cape May, N. J. の "Friends' General Conference"； c：Force & the World Order； d：聴衆は 1000 人ほど； e：日記； f：；
- 87). a：1938 年 6 月 28 日； b：Wallingford, Pendle Hill, Pa.； c：不明； d：現地の学生 50 人； e：日記； f：；
- 88). a：1938 年 7 月 1 日； b：LaSalle St. Chicago； c：National Crisis & Student Life；

- d: 中国キリスト教学生大会出席者; e: 日記, 年譜五, p.1630; f: 後に *Chinese Christian Student*, Vol. 29, No. 2. December 1938. pp.3-4. に掲載 (西文目録 173 号);
- 89). a: 1938 年 7 月 1 日; b: LaSalle, Chigaco; c: The Far Eastern Situation; d: 中国キリスト教学生大会出席者; e: 年譜五, p.1630; f: 後に *IBID*, Vol. 29, No. 3, January, 1939. pp.9-10. に掲載 (西文目録 174 号);
- 90). a: 1938 年 7 月 5 日午後 4 時半; b: Ann Arbor, Michigan 大学; c: The Political Thought of the Classical Schools of Ancient China; d: Michigan 大学関係者; e: 日記; f: ;
- 91). a: 1938 年 7 月 6 日昼食; b: Ann Arbor, Institute の会食; c: 不明; d: Institute の会食の出席者; e: 日記; f: ;
- 92). a: 1938 年 7 月 6 日午後; b: Ann Arbor, Institute; c: Social and Political Development in Medieval China; d: Institute 関係者; e: 日記; f: ;
- 93). a: 1938 年 7 月 6 日午後; b: Ann Arbor, 中国学生会; c: 抗日戦争一周年; d: 中国学生; e: 日記; f: キー④⑥;
- 94). a: 1938 年 7 月 7 日午後; b: Ann Arbor; c: 不明; d: Institute 関係者; e: 日記, 「胡先生傳」p.104, 年譜五, p.1630; f: ;
- 95). a: 1938 年 7 月 8 日; b: Ann Arbor; c: 不明; d: Institute 関係者; e: 日記; f: ;
- 96). a: 1938 年 7 月 11 日; b: ニューヨーク, Port Arthur; c: 不明; d: 不明; e: 日記; f: 私は講演をした。私はアメリカにいる 9 ヶ月の間, 他の成果はないが, ただ「無為」を力に入れて行っただけだった;
- 97). a: 1938 年 8 月 17 日; b: イギリスのロンドン, The New Commonwealth Institute; c: 不明; d: The New Commonwealth Institute の関係者; e: 日記; f: ;
- 98). a: 1938 年 8 月 21 日; b: ロンドン, China Institute (イギリス); c: 不明; d: 中国学生; e: 日記; f: ;
- 99). a: 1938 年 8 月下旬; b: ロンドン「中華協会」; c: 「抗戦 1 周年の観感」; d: ロンドン「中華協会」関係者; e: 「胡先生傳」p.104, 年譜五 pp.1642-1643; f: ;
- 100). a: 1938 年 8 月 30 日午前中; b: スイスの史学会; c: Newly Discovered Materials for Chinese History; d: 史学会出席者; e: 日記; f: ;
- 101). a: 1938 年 10 月 28 日; b: ワシントン; c: 不明; d: 新聞記者 24 人; e: 日記; f: ;
- 102). a: 1938 年 11 月 2 日; b: ワシントン; c: 不明; d: 新聞界; e: 「胡先生傳」p.25, p.124, 「蔣總統秘録」第 12 冊, p.23, 年譜五 p.1652; f: ;
- 103). a: 1938 年 11 月 17 日晚; b: ワシントンの Orientalia の晩餐会; c: 中国の近状;

- d: Orientalia の晩餐会 50 人余り； e: 日記； f: ；
- 104). a: 1938 年 11 月 26 日； b: ワシントン, Cosmos Club； c: Chamberlain のための
弁護； d: Cosmos Club 関係者； e: 日記； f: ；
- 105). a: 1938 年 11 月 28 日； b: ワシントンの Overseas Writers Club； c: 不明； d:
不明； e: 日記； f: ；
- 106). a: 1938 年 12 月 4 日夕食後； b: ニューヨークの Harmonie Club； c: Japan's war
in China； d: ニューヨークの Harmonie Club 出席者； e: 日記, 年譜五 p.1654； f:
キー③④⑥⑧, 後に Chinese Cultural Society, 1938, p. 7. に掲載 (西文目録 35 号, 年譜五 p.
1661)；
- 107). a: 1938 年 12 月 5 日； b: ニューヨークの Lawyer's Club； c: Japan's war in
China； d: Lawyer's Club の 50 人； e: 日記, 年譜五 p.1655； f: キー③④⑥⑧, 「そ
の日から 77 日の入院生活をした」；
- 108). a: 1939 年 5 月 24 日； b: ワシントンの Columbia Alumni Club Banquet； c: 私の
Columbia Univ. の思い出； d: Columbia Alumni Club Banquet 関係者； e: 日記；
f: ；
- 109). a: 1939 年 5 月 26 日； b: ワシントン； c: 不明； d: 合衆社記者； e: 「胡先生
傳」 p.26, 年譜五 p.1667； f: キー④⑥⑧；
- 110). a: 1939 年 5 月 27 日； b: ワシントン； c: 不明； d: 合衆社記者； e: 「胡先生
傳」 p.26, 年譜五 p.1667； f: キー⑦；
- 111). a: 1939 年 6 月 6 日； b: ニューヨークの Columbia University Alumni Luncheon；
c: 不明； d: Columbia University Alumni Luncheon 関係者； e: 日記, 1939 年 6 月 7
日「ニューヨークタイムズ」, 年譜五 p.1669； f: ；
- 112). a: 1939 年 6 月 6 日； b: ニューヨークのコロンビア大学学生の卒業式； c: 不明；
d: コロンビア大学学生； e: 年譜五 p.1669； f: 後に *IBID*, Vol. 29, No. 6-7, June, 1939,
p.8 に掲載 (西文目録 175 号)；
- 113). a: 1939 年 6 月 10 日 11 時； b: Philadelphia, Haverford College； c: Commencement
Address at Haverford College； d: Haverford College の卒業式参加者； e: 日記； f: ；
- 114). a: 1939 年 6 月 17 日夜； b: Ithaca, 同じクラス (1914 年) の年会 Alumni Luncheon；
c: 不明； d: 同じクラス (1914 年) の年会出席者 2000 人余り； e: 日記； f: ；
- 115). a: 1939 年 6 月 18 日昼； b: Ithaca, 中国学生会； c: 不明； d: 中国学生； e:
日記； f: ；
- 116). a: 1939 年 6 月 20 日； b: ニューヨーク； c: 「天津事件」について； d: アメリカ
新聞界； e: 「胡先生傳」 pp.26-27, 年譜五 p.1670； f: ；
- 117). a: 1939 年 7 月 7 日； b: アメリカワシントンの華僑のデモ； c: 不明； d: 華

僑； e：日記； f：；

- 118). a：1939年7月25日； b：ニューヨーク, Greenwich, Conn.； c：不明； d：American Bureau for Medical Aid in China 来場者は90人； e：日記； f：私と Dr. Judd が演説をした；
- 119). a：1939年8月10日午後4時； b：Ann Arbor の Racklam Hall； c：Let's Look a Little Ahead； d：1000人余り； e：日記, 年譜五 p.1673, 全集第37巻 p.528； f：キー①②④⑥⑧；
- 120). a：1939年8月11日午後6時； b：Ann Arbor, 中国学生会； c：不明； d：中国学生180人； e：日記； f：；
- 121). a：1939年9月26日午後1時； b：ワシントン, Women's National Press Club； c：不明； d：Women's National Press Club 会員； e：日記； f：；
- 122). a：1939年10月6日； b：Pittsburgh の U. of Pittsburgh； c：Dedication of China Memorial Room； d：China Memorial Room Committee 関係者； e：日記, 年譜五 p.1682, 全集第37巻 p.544； f：；
- 123). a：1939年10月9日昼； b：New York； c：不明； d：中国銀行などの銀行界のリーダー； e：日記； f：；
- 124). a：1939年10月10日午後； b：New York World's Fair の China Day の式； c：Broadcast, New York World's Fair (The Meaning of October Tenth)； d：China Day の式の出席者； e：日記, 年譜五 p.1682, 全集第37巻 p.549・555； f：後に *Chinese Chistian Student*, Vol. 30. No. 1-2. October-November, 1939. p.4. に掲載 (西文目録178号)；
- 125). a：1939年10月20日夜； b：New York City； c：不明； d：Dewey 先生の80歳誕生日記念食事会の来場者約700人； e：日記； f：；
- 126). a：1939年10月22日； b：ニューヨーク, Conference on Methods of Philosophy； c：不明； d：Conference on Methods of Philosophy 参加者； e：日記； f：；
- 127). a：1939年10月30日； b：New York； c：We are Still Fighting； d：China Society 宴会の参加者300人； e：日記, 年譜五 p.1682； f：キー①⑥⑧, 後に *China Magazine*, Vol. 16, No. 1. February, 1940, pp.4-6. (西文目録94号), また「戦争はまだ続く」として日本の『改造』1940年4月号に掲載；
- 128). a：1939年10月31日； b：ニューヨーク； c：To Friends of China in America； d：「一碗ご飯運動」集会出席者； e：年譜五 p.1686； f：キー⑥⑧, 後に *Bowl of Rice Ball*. Program for New York city Bowl of Rice Dinner and Ball, Address given October 31. 1939. pp.5-6. に掲載 (西文目録177号)；
- 129). a：1939年11月1日夜； b：アメリカ医薬援華協会； c：偉大なる同情心； d：アメリカ医薬援華協会関係者； e：全集第44巻 p.158； f：；

- 130). a: 1939 年 11 月 11 日; b: ニューヨークのコロンビアラジオ局; c: 不明; d: アメリカ聴衆; e: 年譜五 p.1686; f: キー①⑦, 後に In: *The Family of Nations. Address delivered over the Columbia Broadcasting Network. New York, 1939, pp.14-16* に掲載 (西文目録 176 号);
- 131). a: 1939 年 11 月 14 日夜; b: ニューヨークの Syracuse, N. Y. の大学 (Syracuse U.); c: 不明; d: 学生; e: 日記; f: ;
- 132). a: 1939 年 11 月 15 日夜; b: ニューヨークの Syracuse; c: 不明; d: Philosophy Club 出席者; e: 日記; f: ;
- 133). a: 1939 年 11 月 23 日午後; b: New Haven, Yale University の Timothy Dwight College; c: 「責任を負う思想」(Responsible Thinking); d: Dwight College の学生; e: 日記, 「胡先生傳」p.27, 年譜五 p.1688; f: ;
- 134). a: 1939 年 11 月 23 日夜; b: New Haven, Lawn Club; c: 不明; d: Lawn Club 集会出席者; e: 日記, 「胡先生傳」p.27, 年譜五 p.1688; f: キー④⑥⑧;
- 135). a: 1939 年 11 月 24 日昼; b: New Haven; c: 不明; d: 中国学生; e: 日記; f: ;
- 136). a: 1939 年 12 月 5 日午前 11 時; b: New York の Town Hall; c: The Present Situation in China; d: アメリカ国民; e: 日記, 年譜五 p.1690, 全集第 37 巻 p.562; f: キー②④⑤⑥⑧, 後に *China Monthly*, Vol. 1. No. 2. January, 1940. pp.4-5, 12-13.) (西文目録 93 号) に掲載, なお, 日本の雑誌『改造』では, 1940 年 3 月に胡適のこの講演を日本語訳「支那の現情勢」として掲載した;
- 137). a: 1939 年 12 月 9 日昼; b: New York; c: 不明; d: Foreign Policy Association の出席者; e: 日記, 「胡先生傳」p.106, 年譜五 p.1696; f: ;
- 138). a: 1939 年 12 月 11 日昼; b: Cincinnati の Netherland Plaza; c: 不明; d: 中国救済会食の来場者は 925 人; e: 日記; f: ;
- 139). a: 1939 年 12 月 29 日昼; b: ワシントン; c: Modernization of China & Japan: a comparative study of culture conflict; d: アメリカ歴史協会関係者; e: 日記, 年譜五 p.1696; f: 後に *The China Quarterly*, Vol. 5, No. 4. Supplementary Winter, 1940. pp.773-780 に掲載 (西文目録 183 号);
- 140). a: 1940 年 1 月 8 日; b: ニューヨーク; c: China & the World War; d: Brooklyn Institute of Arts & Sciences 出席者; e: 日記, 全集第 37 巻 p.604; f: ;
- 141). a: 1940 年 1 月 12 日昼; b: Philadelphia; c: The World War & the Future World Order; d: Association of American Colleges の関係者; e: 日記; f: ;
- 142). a: 1940 年 1 月 25 日; b: New York; c: China Christian College and American Friends; d: "Associated Broads for the China Colleges" の宴会来場者は 500 人余り;

- e：日記，年譜五 p.1703； f：後に *IBID*, Vol. 30, No. 4. February-March, 1940. pp.1, 7-8 に掲載（西文目録 179 号）；
- 143). a：1940 年 1 月 27 日昼； b：ニューヨークの Waldorf-Astoria の Cornell Women の年会； c：不明； d：Waldorf-Astoria の Cornell Women の年会出席者； e：日記； f：；
- 144). a：1940 年 3 月 5 日夜； b：Winter Park, Florida； c：The Far East and the Future Peace of the World； d：The Rollins Institute on International Relations 出席者； e：日記，年譜五 p.1704，全集第 44 巻 p.173； f：後に *The China Quarterly*, Vol. 5, No. 3. Summer, 1940. pp.399-407 に掲載（西文目録 180 号）；
- 145). a：1940 年 3 月 13 日夜； b：New York； c：Chinese Renaissance； d：Mrs. Murry K. Crane の家の来客； e：日記； f：；
- 146). a：1940 年 3 月 26 日夜； b：Los Angeles； c：不明； d：孝篤親公所での食事招待客； e：日記； f：；
- 147). a：1940 年 3 月 27 日； b：Los Angeles の Commonwealth Club； c：China After 33 months Fighting； d：不明； e：日記； f：；
- 148). a：1940 年 3 月 28 日午後； b：Los Angeles の University of California； c：不明； d：中国学生； e：日記； f：；
- 149). a：1940 年 4 月 7 日 11 時； b：New York； c：Society Immortality； d：Society of Ethical Culture の出席者； e：日記，年譜五 p.1705； f：後に A View of Immortality として An Address at the New York Society for Ethical Culture, April 7, 1940, New York, 1940, pp.1-4. に掲載（西文目録 36 号）；
- 150). a：1940 年 4 月 13 日昼； b：Rochester, N. Y； c：不明； d：City Club の来場者； e：日記 1； f：；
- 151). a：1940 年 4 月 13 日午後； b：Rochester, N. Y. の Salem Church の Fellowship of Reconciliation； c：New Pacificism； d：Fellowship of Reconciliation 来場者； e：日記； f：；
- 152). a：1940 年 5 月 1 日昼； b：ワシントン, Baltimore の Engineers Club； c：不明； d：不明； e：日記； f：；
- 153). a：1940 年 5 月 6 日； b：ワシントン, Univ. of Chicago Club の年会； c：不明； d：年会出席者； e：日記； f：；
- 154). a：1940 年 5 月 9 日夜； b：New York； c：National Progress and International Anarchy (On General Subject Prosperity and Employment)； d：Economic Club の年会の宴会出席者； e：日記，全集第 38 巻 p.1； f：；
- 155). a：1940 年 6 月 5 日； b：Philadelphia, Bryn Mawr College； c：不明； d：Bryn

- Mawr College 卒業式参加者； e：日記； f：；
- 156). a：1940 年 6 月 10 日； b：Philadelphia, Union College； c：Intellectual Preparedness； d：Union College 卒業式参加者； e：全集第 38 巻 p.7； f：；
- 157). a：1940 年 9 月 18 日； b：Philadelphia； c：Sept. 18, -An anniversary of world anarchy； d：Rotary Club での食事出席者； e：日記； f：；
- 158). a：1940 年 9 月 19 日； b：Philadelphia, Univ. of Penna.； c：Instrumentalism as a Political Concept； d：不明； e：日記； f：；
- 159). a：1940 年 10 月 24 日昼； b：ニューヨーク； c：China Fights On； d：不明； e：日記，「胡先生傳」p.107，年譜五 p.1710，全集第 38 巻 p.68； f：後に *War and Peace Aims of the United Nations*, edited by Louise W. Holburn. Boston, World Peace Foundation, 1943, Vol. 1, pp.378-379 に掲載（西文目録 188 号）；
- 160). a：1940 年 10 月 24 日午後； b：New York Herald Tribune Forum； c：Saving Democracy in China (China's Part in the Struggle for the Saving of Democracy)； d：不明； e：日記，「胡先生傳」p.107，年譜五 p.1710，全集第 38 巻 p.78； f：キー⑦，後に *America's Second Fight for Freedom*, Report of New York Herald Tribune 10th Annual Forum on Current Problems at the Waldorf-Astoria, New York, October 22, 23, 24, 1940, New York, N. Y. 1940, pp.235-238 に掲載（西文目録 181 号）；
- 161). a：1940 年 10 月 24 日； b：ニューヨークの Vassar 女子学院国際研究会； c：不明； d：Vassar 女子学院国際研究会出席者； e：年譜五 p.1711； f：；
- 162). a：1940 年 10 月 28 日； b：連合大学； c：不明； d：不明； e：「胡先生傳」p.107，年譜五 p.1712； f：；
- 163). a：1940 年 10 月 28 日； b：ニューヨーク Syracuse city のニューヨーク州教育局長協会； c：不明； d：ニューヨーク州教育局長協会関係者； e：「胡先生傳」p.107，年譜五 p.1712； f：；
- 164). a：1940 年 11 月 1 日； b：ニューヨーク； c：An Address at the Bowl of Rice Dinner； d：アメリカ援華委員会及び援華医薬救済委員会； e：年譜五 p.1712，全集第 38 巻 p.85； f：；
- 165). a：1940 年 11 月 8 日； b：マサチューセッツ州, Mount Holyoke college&Smith college； c：不明； d：Mount Holyoke college&Smith college； e：年譜五 p.1712； f：；
- 166). a：1940 年 11 月 14 日； b：Boston； c：不明； d：William Allan White Committee for Defending America by Aiding the Allies； e：日記，年譜五 p.1713； f：；
- 167). a：1940 年 11 月 14 日； b：Boston の Harvard Club； c：不明； d：East Asiatic Society の食事会出席者； e：日記，年譜五 p.1713； f：；

- 168). a: 1940 年 11 月 15 日昼; b: Boston; c: The Place of the Alumni Organization in the History of Universities; d: Cornell Alumni Association の年会出席者; e: 日記, 年譜五 p.1713; f: ;
- 169). a: 1940 年 11 月 15 日夜; b: Boston, Fletcher School of Law&Diplomacy (Medford, Mass.); c: 不明; d: Prof. George H. Blakeslee 夫婦他; e: 日記, 年譜五 p.1713; f: Boston での 26 時間の間, 4 回も講演した。;
- 170). a: 1940 年 11 月 28 日; b: New York の Town Hall; c: What Kind of World Order Do We Want?; d: ラジオ放送の聴衆; e: 日記, 「胡先生傳」 p.108; f: 後に *Town Meeting*, Vol. 6, No. 3. December 2, 1940. pp.4-7 に掲載 (西文目録 182 号);
- 171). a: 1940 年 12 月 5 日; b: ニューヨーク世界学社; c: Women's Place in Chinese History; d: 不明; e: 年譜五 p.1713; f: 後に 1954. p.8. The author's note: "This paper was first read in 1931 before the American Association of University Women in Tientsin, China. A Summary of it was read at a meeting of friends of Ginling College for Women sponsord by Mrs. Dwight Morrow, Mrs. Louis F. Slade, Mrs. Theodore Roosevelt, Jr. and others on December 5, 1940 at the Cosmopolitan Club in New York City" に掲載 (西文目録 43 号);
- 172). a: 1941 年 1 月 11 日夜; b: ニューヨークの Cornell Club の Foundation Day; c: Ezra Cornell; d: 不明; e: 日記; f: ;
- 173). a: 1941 年 1 月 16 日午後 4 時; b: New Haven, Yale 大学の Art Gallery 講堂; c: A Historian Looks at Chinese Painting; d: Yale 大学関係者; e: 日記, 年譜五 p.1719; f: 後に *Asia Magazine*, Vol. 41, No. 5 (May 1941), pp.215-218 に掲載 (西文目録 100 号);
- 174). a: 1941 年 1 月 17 日午後; b: Hartford Seminary で茶会; c: 不明; d: Hartford Seminary で茶会出席者 100 人余り; e: 日記; f: ;
- 175). a: 1941 年 1 月 23 日; b: ニューヨーク; c: An Address Before the China Society of America; d: China Society の宴会の出席者; e: 日記, 全集第 38 巻 p.131; f: ;
- 176). a: 1941 年 1 月 27 日; b: ニューヨークの Bronxville, N. Y.; c: 不明; d: 当地の Little Forum の宴会参加者; e: 日記; f: ;
- 177). a: 1941 年 2 月 5 日; b: New York City; c: Ambassador's Remarks, William Allen White Dinner; d: ; e: 全集第 38 巻 p.173; f: ;
- 178). a: 1941 年 2 月 6 日; b: ニューヨーク; c: Conditions in China and the Outlook; d: the Union League Club; e: 「胡先生傳」 p.29, 年譜五 p.1716; f: キー④⑥;
- 179). a: 1941 年 2 月 15 日; b: Washington, D. C.; c: The Chinese Novel; d: The Literary Society; e: 全集第 38 巻 p.150; f: ;
- 180). a: 1941 年 2 月 24 日; b: ニューヨークの Amherst; c: China's Fight for Freedom;

- d: Political Union (of Amherst College) の関係者; e: 日記, 全集第 38 巻 p.139; f: ;
- 181). a: 1941 年 2 月 25 日; b: ニューヨーク; c: 不明; d: The Churchman Dinner in honor of Mr. Wm. Allen White 出席者; e: 日記; f: ;
- 182). a: 1941 年 2 月 27 日朝; b: ワシントンの Atlantic City; c: A New World Order Cometh; d: Atlantic City, 71st Annual Convention of the American Association of School Administrators の出席者; e: 日記; f: ;
- 183). a: 1941 年 3 月 12 日; b: Illinois, Univ. of Illinois; c: Historical Foundations for a Democratic China; d: Univ. of Illinois; e: 全集第 38 巻 p.181; f: ;
- 184). a: 1941 年 4 月 2 日; b: ワシントンの Shorcham Hotel; c: Far East Lecture Series; d: アメリカ首都の婦人会一千人; e: 日記; f: ;
- 185). a: 1941 年 4 月 7 日; b: ニューヨーク; c: 「社会永生」; d: ニューヨーク倫理文化協会関係者; e: 「胡先生傳」 p.109, 年譜五 p.1718; f: ;
- 186). a: 1941 年 4 月 10 日; b: Boston, アメリカ芸術科学研究院; c: 「十七世紀中国哲学の裏切り者」; d: 不明; e: 「胡先生傳」 p.109, 年譜五 p.1718; f: ;
- 187). a: 1941 年 4 月 13 日; b: ワシントンの罗斯福特城クラブ; c: 不明; d: 罗斯福特城クラブ関係者; e: 「胡先生傳」 p.109, 年譜五 p.1718; f: ;
- 188). a: 1941 年 4 月 30 日; b: ワシントンの世界博覧会展示会場開幕式; c: Dedication Ceremonies for the Bureau Pavilion at the World's Fair; d: 世界博覧会展示会場開幕式出席者; e: 年譜五 p.1718; f: 後に *ABMAC Bulletin*, Vol. 3, No. 4, April, 1941. p.4 に掲載 (西文目録 184 号);
- 189). a: 1941 年 6 月 16 日; b: Middlebury College, Vt.; c: 不明; d: Middlebury College, Vt. 卒業式参加者; e: 日記; f: ;
- 190). a: 1941 年 6 月; b: Purdue University; c: 「知識の準備」 (Intellectual Preparedness); d: Purdue University 卒業式参加者; e: 年譜五 p.1721; f: 後に Layayette, Purdue University, 1941, pp.20-28 に掲載 (西文目録 37 号);
- 191). a: 1941 年 7 月 1 日; b: ワシントン; c: 帝国主義国家連合が「汪偽組織」を認めたことについて; d: 不明; e: 「胡先生傳」 p.29, 年譜五 p.1729; f: ;
- 192). a: 1941 年 7 月 8 日午後; b: Ann Arbor; c: The Conflict of Ideologies; d: Hill Auditorium 関係者聴衆は約 2, 3 千人; e: 日記, 年譜五 p.1730; f: キー⑤⑧, 後に The Conflict of Ideologies, *The Annals of the American Academy of Political and Social Science*, Vol. 218. November, 1941, pp.26-36 (「西文著作目録」 103 号, 全集第 44 巻 p.197);
- 193). a: 1941 年 7 月 9 日午前; b: Ann Arbor; c: American & The Far East; d: 不明; e: 日記; f: ;

- 194). a: 1941年7月22日; b: Harvard Summer School, Boston; c: Seeking a Plan and a Philosophy for a New World Order; d: Harvard Summer School; e: 全集第38巻 p.249; f: ;
- 195). a: 1941年9月19日; b: Cincinnati; c: China's Fight for Freedom; d: the Fifty-second Annual Convention of the National Association of Life Underwriters; e: 全集第38巻 p.274; f: ;
- 196). a: 1941年9月24日; b: Univ. of Chicago; c: The Exchange of Ideas between the Occident and the Orient; d: Univ. of Chicago; e: 全集第38巻 p.290; f: ;
- 197). a: 1941年10月2日; b: ニューヨークメディソン広場花園; c: Speech at the United China Relief Rally; d: アメリカ連合救済中国難民協会が主催した「中国ラジオ」大会で、演説をした。参加者には、New Jersey 州長 J. Edison や、連邦保安部部長、ニューヨーク市長、名作家などおよび市民 18000 人がいた; e: 「胡先生傳」p.30, 年譜五 p.1742, 全集第38巻 p.321; f: ;
- 198). a: 1941年10月10日; b: ニューヨークの the Columbia Broadcasting Station; c: Soul of the Chinese Revolution (The Historical Significance of the Chinese Revolution); d: アメリカ国民; e: 全集第38巻 p.324. p.330; f: 後に *sphere* (Monthly from Washington), Vol. 28, No.5 (November, 1941), pp.9-10, 35 に掲載 (西文目録 105 号);
- 199). a: 1941年10月10日; b: ニューヨークの the Mutual Broadcasting System; c: China's Greatest Achievement in the Thirty Years under the Republic; d: アメリカ国民; e: 全集第38巻 p.336; f: ;
- 200). a: 1941年10月23日; b: Pittsburgh; c: Address on the Occasion of Founder's Day; d: on the Occasion of Founder's Day 参加者; e: 全集第38巻 p.342; f: ;
- 201). a: 1941年10月; b: New Jersey 州の両院連合会; c: 不明; d: New Jersey 州の両院連合会参加者; e: 「胡適言論集」乙編 p.36, 年譜五 p.1742; f: これは、先生がはじめて、外国立法機関の招待を受けた;
- 202)a, 1941年11月10日; b: the Jewish Theological Seminary of America, New York city; c: Confucius; d: the Jewish Theological Seminary of America 関係者; e: 全集第38巻 p.375; f: ;
- 203). a: 1941年11月13日; b: New orleans, Louisiana; c: Thrills and Adventures of Pamphleteering Journalism in Modern China; d: The Sigma Delta Chi Convention 出席者; e: 全集第38巻 p.394; f: ;
- 204). a: 1941年11月15日; b: New Orleans の Tulane University; c: 不明; d: Tulane University 関係者; e: 「胡先生傳」p.30, 年譜五 p.1743; f: キー④⑥;
- 205). a: 1941年12月7日 (アメリカ時間 6 日); b: ニューヨーク; c: 不明; d:

- ニューヨークの重要人物による彼のために主催した盛大な宴会の出席者； e：年譜五 p.1747； f：；
- 206). a：1941 年 12 月 15 日； b：the Canadian Club of Toronto, Toronto, Canada； c：China's Power to Fight on； d：the Canadian Club of Toronto 参加者； e：全集第 38 巻 p.400； f：；
- 207). a：1941 年 12 月 19 日； b：ワシントンのアメリカ中国協会所； c：Our Honorable Enemy； d：アメリカ中国協会所が主催した中国大使を歓迎する会出席者； e：年譜五 p.1751； f：後に China at War, Vol. 8, No. 1, January, 1942 に掲載（西文目録 187 号）；
- 208). a：1941 年 12 月末； b：アメリカ政治学会年会； c：不明； d：アメリカ政治学会年会出席者； e：「胡適時論」1 集 p.48, 年譜五 p.1752； f：；
- 209). a：1942 年 1 月 10 日夜； b：at the Educational Policies Commission, ニューヨーク； c：The Odyssey of a Chinese University； d：American Educational Policies Commission の会食参加者； e：日記, 全集第 38 巻 p.417； f：；
- 210). a：1942 年 1 月 17 日； b：Philadelphia； c：不明； d：Real Estate Board の年会出席者； e：日記, 年譜五 p.1755； f：後に *Congressional Record Proceedings and Debates of the 77th Congress, Second Session, Washington, D. C., January 17, 1942, pp.1-2.* に掲載（西文目録 187 号）；
- 211). a：1942 年 1 月 19 日 昼； b：Detroit の Economic Club の 年 会； c：Introducing China-Old Friend and New Ally； d：Economic Club の年会参加者； e：日記, 全集第 38 巻 p.420； f：；
- 212). a：1942 年 1 月 20 日 昼； b：Minneapolis, Minn.； c：不明； d：Civic&Commerce Association 関係者； e：日記； f：；
- 213). a：1942 年 1 月 20 日 午後； b：Minneapolis, Minn. Nankin 飯館； c：不明； d：中国人学生 30 数人； e：日記； f：；
- 214). a：1942 年 1 月 20 日夜； b：Minneapolis, Minn.の United China Relief Committee の宴会； c：不明； d：United China Relief Committee の宴会出席者； e：日記； f：；
- 215). a：1942 年 1 月 22 日； b：ニューヨーク； c：「橋」(Bridge)； d：不明； e：日記； f：；
- 216). a：1942 年 1 月 22 日夜； b：ニューヨークの Harvard Club； c：不明； d：Harvard Club 関係者； e：日記； f：；
- 217). a：1942 年 2 月 14 日； b：Antioch College, Yellow Springs, Ohio； c：A Philosophy of Life； d：Antioch College 関係者； e：全集第 38 巻 p.466； f：；
- 218). a：1942 年 2 月 19 日； b：the West Coast, Seattle, San Francisco； c：China As a Fighting Ally（中国は戦争の盟国として）； d：不明； e：年譜五 p.1759, 全集第 38 巻 p.

- 477； f：キー①③④⑤⑥⑧；
- 219). a：1942年2月20日； b：Vancouver, B. C., 2nd Victory Loan Campaign； c：Canada and China as Comrades in War； d：2nd Victory Loan Campaign 出席者； e：全集第38巻 p.491； f：；
- 220). a：1942年3月11日； b：at the Chamber of Commerce dinner at East Orange, New Jersey； c：China's Fighting Strength and Fighting Faith； d：the Chamber of Commerce dinner 出席者； e：全集第38巻 p.502； f：；
- 221). a：1942年3月14日； b：ラジオ局； c：Remarks at East-West Association Dinner for India； d：アメリカ国民； e：全集第38巻 p.508； f：；
- 222). a：1942年3月16日； b：before the Economic Club of New York； c：Speech before the Economic Club of New York； d：the Economic Club of New York 出席者； e：全集第38巻 p.512； f：；
- 223). a：1942年3月16日； b：ニューヨークのコロンビア大学中国救济会； c：This is A Tiny Cloud； d：コロンビア大学中国救济会参加者； e：年譜五 p.1767； f：後に *Time Magazine*, Vol. 39, No. 11, March 16, 1942, p.32 に掲載（西文目録224号）；
- 224). a：1942年3月22日； b：ラジオ局 Washington, D. C.； c：Broadcast over Mutual Network； d：アメリカ国民； e：全集第38巻 p.528； f：；
- 225). a：1942年3月23日； b：ワシントン (The Radcliffe Club)； c：China, too, Is Fighting to Defend a Way of Life； d：不明； e：年譜五 p.1767； f：キー①⑤⑥⑧，後に San Francisco The Grabbon Press, 1942 p. 17 に掲載（西文目録39号）；
- 226). a：1942年3月27日； b：Annual Dinner, Columbia Law Review, New York； c：Law and Lawyers in Historic China； d：Annual Dinner, Columbia Law Review 出席者； e：全集第38巻 p.557； f：；
- 227). a：1942年4月11日； b：ラジオ局； c：Broadcast for Opening of United China Relief Campaign； d：在アメリカ中国人； e：全集第38巻 p.571； f：；
- 228). a：1942年4月20日； b：the Wharton School of Finance and Commerce, University of Pennsylvania； c：China's Place in the Present World Struggle； d：the Wharton School of Finance and Commerce, University of Pennsylvania 学生； e：全集第38巻 p.573； f：；
- 229). a：1942年5月4日； b：ワシントンのラジオ局； c：「五四」を記念して； d：中国国内； e：全集第44巻 p.204； f：；
- 230). a：1942年5月12日； b：the Cosmos Club, Washington D. C.； c：The Struggle for Intellectual Freedom in Historic China； d：Cosmos Club 関係者； e：全集第38巻 p.603； f：；

- 231). a: 1942 年 6 月 14 日; b: Boston; c: Speech at the United Nations Rally in Boston; d: アメリカ国民; e: 全集第 38 巻 p.611; f: ;
- 232). a: 1942 年 6 月 15 日; b: Wellesley 女子学院; c: Commencement Address at Wellesley College (Looking Forward); d: Wellesley 女子学院卒業式参加者; e: 年譜五 p. 1778, 全集第 38 巻 p.614・617; f: 後に *IBID*, 1943, Vol. 1, pp.396-397. に掲載 (西文目録 190 号);
- 233). a: 1942 年 7 月 7 日; b: ワシントン; c: 「抗戦 5 周年記念」; d: 中国国内; e: 年譜五 p.1780; f: キー①④⑤⑥⑧, アメリカ宣伝部の要請で, ワシントンで国内に向けて「抗戦 5 周年記念」をラジオ放送した;
- 234). a: 1942 年 8 月 8 日; b: Washington, D. C. ラジオ局; c: Extracts of the Remarks of the Chinese Ambassador, Dr. Hu Shih; d: アメリカ国民; e: 全集第 38 巻 p.626; f: ;
- 235). a: 1942 年 9 月 2 日から 5 日; b: ワシントン大学; c: The United Nations; d: ワシントン大学が開催した国際学生大会参加者; e: 年譜五 p.1783; f: 後に *Proceedings of the International Student Assembly*, held at the American University, Washington, D. C., September 2-5, 1942. New York, 1944., pp.139-143 に掲載 (西文目録 191 号);
- 236). a: 1942 年 9 月 5 日; b: Before the International Student Assembly, Departmental Auditorium, Washington, D. C.; c: Why, What and How?; d: the International Student Assembly; e: 全集第 38 巻 p.634; f: ;

二、論文のみ掲載の状況

以下に、講演に基づかず、単独で発表・掲載されたと考えられる論著を列举する。便宜的に通し番号を附す。なお、英文表記に関しては季維龍編『胡適著訳系年目録』（前掲）所収の尤金・勒・徳蘭菲尔、袁同礼編「胡適西文著作目録」に拠った。

- 第 1. 1937 年, The Indianization of China: A Case Study in Cultural Borrowing. In: *Independence, Convergence and Borrowing in Institutions, Thought and Art*. Cambridge, Harvard University Press, 1937 (Harvard Tercentenary Publications), pp.219-247. (西文目録 13 号, 全集第 44 巻 p.124)
- 第 2. 1938 年 1 月, Chinese View of Immortality. *Hibbert Journal*, Vol. 26, pp.287-292. (西文目録 87 号, 年譜五 p.1629)
- 第 3. 1938 年 7 月, The Westernization of China and Japan. (中国と日本の西洋化) *Amerasia*, Vol. 2, No. 5 (西文目録 89 号・139 号, 年譜五 p.1631)
- 第 4. 1938 年 7 月, The Invasion of China by the Western World, by E. R. Hughes, and Japan

- in Transition, by Emil Lederer and Emy Lederer. In: *Amerasia*, July 1938 (「西文著作目録」138号, 全集第44巻 P.132), なお, 日本の雑誌『日本評論』では, 1938年10月に胡適のこの論文を日本語訳「日本と支那の西洋化」として掲載した;
- 第5. 1938年8月, What Can America Do in the Far East Situation? *IBID*, Vol. 2, No. 6, August 1938, pp.293-295. Also in: *China Weekly Review*, Vol. 86, September 24, 1938, p.106-107. (西文目録90号, 年譜五 p.1632)
- 第6. 1938年11月, Preface to the *Symposium on Science and the Philosophy of Life* (Abstract). In: *China Institute Bulletin*, Vol. 3, No. 2. (西文目録148号, 年譜五 p.1654)
- 第7. 1938年12月, My Mother. In: *The Bulletin, published by the Woman's Club of Upper Montclair*, New Jersey, Vol. 14, No. 3, p. 6. (西文目録222号, 年譜五 p.1660)
- 第8. 1938年12月, A Vow on Poetry (part of a long poem). In: *News Is My Job*, by Edna Lee Booker, New York, Macmillan, 1939, p. 194 (西文目録223号, 年譜五 p.1661)
- 第9. 1939年2月, On China's Progress. *Missionary Review of the World*, Vol. 62, No. 2, pp. 86-87. (西文目録92号, 年譜五 p.1664, 全集第44巻 p.145)
- 第10. 1939年6月, An Open Letter to the Guardian. *Harvard Gardian*, Vol. 3, No. 6, pp.3-4 (西文目録91号, 年譜五 p.1670, 全集第44巻 p.151)
- 第11. 1939年, Living Philosophies Revised. In: *I Believe*, ed. by Clifton Fadiman. New York, Simon&Schuster, pp.375-378. (西文目録14号, 年譜五 p.1702, 全集第44巻 p.161)
- 第12. 1940年8月, Letters to Pearl Buck. *American Bureau for Medical Aid to China*, Vol. 2, No. 7, p.3. (西文目録96号, 年譜五 p.1707)
- 第13. 1940年8月29日, Letters to Dr. Edward H. Hume. August 29, 1940. *Bulletin of the American Asiatic Association*, Vol. 6, No. 6, p.22. (西文目録97号, 年譜五 p.1707)
- 第14. 1940年10月20日, Political Philosophy of Instrumentalism. In: *The Philosopher of the Common Man*; Essays in Honor of John Dewey to Celebrate his 80th Birthday, New York, G. P. Putnam's Sons, 1940, pp.205-219. (西文目録15号, 年譜五 p.1710)
- 第15. 1940年, The Modernization of China and Japan. In: *Freedom: Its Meaning*, ed. by Ruth Nanda Anshen. New York, Harcourt, Brace&Co., pp.114-122. Also In: *Cultural Approach to History*, ed. by C. F. Ware for the American Historical Association. New York, Columbia University Press, 1940. p. 243-251. (西文目録16号, 全集第44巻 p.188)
- 第16. 1941年3月, America's Stake in China's Struggle. *Front Democracy*, Vol. 7, pp. 169-170. (西文目録99号, 年譜五 p.1716, 全集第44巻 p.199)
- 第17. 1941年10月, China's Fight for Freedom in Chinese History. *Life Association News*, Vol. 36, No. 2, pp. 136-138, 213-215. (西文目録101号, 年譜五 p.1742, 全集第38巻 p.354)
- 第18. 1941年11月3日, The Change of Ideas Between the Occident and the Orient. A Case

- Study in Cultural Diffusion. *Contemporary China*, Vol. 1, No. 12, pp.1-4. (西文目録 104 号, 年譜五 p.1743, 全集第 44 卷 p.197)
- 第 19. 1941 年, Instrumentalism as a Political Concept (a briefer version of “Political Philosophy of Instrumentalism”). In: *Studies in Political Science and Sociology*, ed. by the University of Pennsylvania Bicentennial Conference. Philadelphia, 1941, pp.1-6 (西文目録 18 号, 年譜五 p.1752, 全集第 44 卷 p.198)
- 第 20. 1941 年, New World Order Cometh. *American Association of School Administration. Official Report for 1941*. pp.148-153. (西文目録 98 号, 年譜五 p.1753, 全集第 44 卷 p.198)
- 第 21. 1941 年, Historical Foundation for a Democratic China. In: *Edmund J. James Lectures on Government: Second Series*. Urbana, University of Illinois Press, 1941, pp.53-64. Also In: *Proceedings, Institute of World Affairs: Problems of the Peace*, Vol. 21. Los Angeles, 1944-1945, pp.54-63. (西文目録 17 号, 年譜五 p.1752)
- 第 22. 1942 年 2 月, Pamphleteering Proves Its Power in China. *The Quill*, Vol. 30, No. 2, pp. 5-12. (西文目録 106 号, 年譜五 p.1766)
- 第 23. 1942 年 2 月, For Just Peace in the Pacific. *Free World*, Vol. 2. No. 1, pp.9-13. (西文目録 107 号, 年譜五 p.1766)
- 第 24. 1942 年 3 月, Our Common Battle, *The American Magazine*, Vol. 132, No. 3, p.25. (西文目録 108 号, 年譜五 p.1776, 全集第 44 卷 p.203)
- 第 25. 1942 年 4 月, China's Fighting Strength and Fighting Faith. *China Monthly*, Vol. 3, No. 5, pp. 4-5. (西文目録 109 号, 年譜五 p.1776, 全集第 44 卷 p.204)
- 第 26. 1942 年 5 月, Peace Has to Be Enforced. India Our Great Teacher. *Asia Magazine*, Vol. 42, No. 5, pp. 263-266, 323-324. (西文目録 110 号, 年譜五 p.1778, 全集第 44 卷 p.205)
- 第 27. 1942 年 6 月 29 日, Looking Forward. *Contemporary China*, Vol. 2, No. 3, pp.2-3. (西文目録 111 号, 年譜五 p.1778)
- 第 28. 1942 年 8 月, A Foreword. Foreword for Tagore's *Sadhana*. August, 1942. (全集第 38 卷 p.629)
- 第 29. 1942 年 9 月, The Struggle for Intellectual Freedom in Historic China. *World Affairs* (Washington, D. C.), Vol. 105, No. 3, pp.170-173. (西文目録 112 号, 年譜五 p.1785)
- 第 30. 1942 年 10 月, Chinese Thought. *Asia Magazine*, Vol. 42, No. 10, p.582-584. 後に *China*, ed. by Harley F. MacNair, Berkeley, University of California Press, 1946, pp.221-230. (西文目録 22 号・113 号, 年譜五 p.1785)
- 第 31. 1942 年 12 月 14 日, Asia and the Universal World Order. *Contemporary China*, Vol. 2, No. 15, pp.1-4. Note: Reprinted from *Christian Science Monitor*. (西文目録 114 号, 年譜五 p.1791)

- 第32. 1942年12月, To Win and Keep the Peace. *The Peabody Reflector*, Vol. 15, No. 11, pp. 406-408. (西文目録115号, 年譜五 p.1791)
- 第33. 1942年12月4日から14日, War and Peace in the Pacific. A preliminary Report of the English Conference of the Institute of Pacific Relations, Mount Tremblant, Quebec, December 4-14, 1942. New York, Institute of Pacific Relations, 1943. In: *Pacific Affairs*, Vol. 16, No. 3, September, 1943, pp.368-370. (西文目録139号, 年譜五 p.1791)
- 第34. 1942年, Factors Necessary for a Durable Peace in the Pacific Area: A Chinese View. In: *A Basis for the Peace to Come*, ed. by Francis J. Mc Connell and others. New York, Abindon-Cokesburg Press, 1942 (The Merrick-McDowell Lectures), pp.115-125. (西文目録19号, 年譜五 p.1792, 全集第38巻 p.453)

三、胡適の講演内容のキーワード

胡適の講演を内容的な面から分析すると、胡適の講演には一貫したものが見られる。例えば、大凡は佐藤一樹氏が言うように、「胡適の対米宣伝」の活動には(1)「中国の戦争目的の説明」と(2)「アメリカが担うべき役割への期待」という内容があった(佐藤一樹「国民使節胡適の対米宣伝活動に関する考察——1937年～1938年——」,『中国研究月報』2006年5月号)。筆者は、それに加えて、日本の侵略の事実と、中国の抗戦の決心を、アメリカに訴え続けることが、胡適の講演の主眼であったと強調したい。また、より細かく分析すると、胡適の講演の主要なキーワード(または話題)として、次の8項目を挙げることができる。

- ①九国条約(世界新秩序, 国際新秩序, 新国際主義, 新世界道徳)
- ②自殺愚行(日本切腹)
- ③福奇谷作戦(Valley Forge)
- ④苦撑待变
- ⑤為世界作戦, 為民主国家作戦
- ⑥民族生存, 抵抗侵略
- ⑦米国の国際的リーダーシップ
- ⑧日本の侵略行為

以下に、各項目について簡潔に説明する。

①九国条約(世界新秩序, 国際新秩序, 新国際主義, 新世界道徳)

これは、胡適が講演の中で一番多く強調した言葉である。早くも1936年8月にアメリカのYosemiteで行われた第6回太平洋国際学会の大会に出席した際に、ハーバード大学で行った講演の中で繰り返し強調している。その講演で胡適は、「九国条約の成立が、太平洋の関係各国に十年の安寧を保たせた(九国公約の成立使得太平洋有关系的各国有了十年的相安)」, しかし、

「1931年9月18日の満洲事変以後の様々な暴力が、日本の覇権を保証する国際機構を破壊してしまった（九一八以後の种种暴行毀坏了那一套保证日本霸权的国际机构）。」などと発言し、極東ないしは全世界の秩序を壊したことを指摘した。

その後、胡適が国民使節として対米宣伝をした時には、講演の中で「九国条約」を繰り返し取り上げた。例えば、1937年11月13日（講演 No. 9）の「極東衝突の背後にある問題」（“The Issues behind the Far Eastern Conflict”）では、「ワシントンで調印された「九国条約」は、中国の独立、領土と行政権の完全を保証し、中国政府の安定と発展の基礎となっていた（在华府签定的「九国公约」，保证中国的独立，领土与行政权的完整，并予以机会藉以充分发展一个安定与有效的政府）」が、日本軍閥とそれを容認した日本政府がこの新世界秩序を破った、などと発言した。また、日本は「第一号敵人」であり世界新秩序を壊した責任を負わなければならないと指摘している。

②自殺愚行（日本切腹）

これは、胡適が日本の侵略行為に対して、早くも1935年から使い始めた言葉である。1935年6月27日に友人の王雪艇に宛てた手紙に「日本はむしろ全民族切腹の路を突き進んでいます。惜しいことに中国はまだ彼らの「介錯」者になる資格がありません。上で述べた策略はいわばたった八文字「日本切腹、中国介錯」です。（日本固然走上了全民族切腹的路，可惜中国还不配做他们的「介错」。上文所述的策略只是八个字：日本切腹而中国介错）^{*2}と云うように、侵略行為を続ける日本の末路を「日本切腹」と表現した。また1939年12月5日（講演 No.136）の「支那の現情勢」では、「これは日本の一大悲劇である。偉大な国家が軽々しくも六十年来の輝かしい成果を棄てて大規模な自殺愚行に従事している。（这是日本的一大悲剧。一个伟大的国家轻易的抛弃了六十年来光辉灿烂的成就来从事一个大规模的自杀愚行。）」と言った。胡適は日本の侵略行為を「日本切腹」、「自殺愚行」と譬えた。

③福奇谷作戦（Valley Forge）

この言葉を胡適は講演で繰り返し使った。1938年12月4日（講演 No.106）に、アメリカの歴史家 John Fiske が著した『アメリカ革命』の中の「福奇谷作戦」を引用したのが最初であろう。胡適はその講演で、アメリカ革命の成功は、福奇谷での艱難辛苦に耐えたワシントン軍隊の「極大な苦しみをも厭わない（不顾极大的艰苦）」闘いと国際情勢がアメリカに有利になったことによることを指摘した。そして、中国の抗日戦争もアメリカ革命と同じような状況にあることを分かりやすく、アメリカ国民に陳述した。

さらに例えば、1942年2月19日（講演 No.218）の「中国は戦う同盟国として」という講演

^{*2} 胡頌平編著『胡適之先生年譜長編初稿』第四冊（聯經出版事業公司，1984年，p.1388），また拙論「日記から見た日中戦争期における胡適の主張の変化——主和から主戦へ——」（『中国哲学』第35号，2007年8月，p.58）を参照。

でも「福奇谷作戦」の事例を引用している。胡適が「福奇谷作戦」を引用するのは、アメリカの国民やアメリカ政府に、中国が置かれている状況を説明し、今の中国は「福奇谷作戦」のように苦しい戦いを続けているが、いずれ必ずアメリカ革命のように成功できると期待をしていることを示しているだろう。

④苦撑待变

この言葉は、中国の抗戦の決心についてよく使われた。例えば、1938年8月（論文第5）の「What Can America Do in Far the East Situation?」で、胡適は「我々は自らまずは兎に角、齒を食いしばって持ちこたえねばならない、先に算盤勘定すべきではない。（但我们自己要先咬牙苦撑，不要先打算盘。）」と論じた。1938年12月4日（講演 No.106）の「北米独立と中国戦争」では、「中国が侵略者との戦争に最終的に勝利するには二つの条件が必須である。第一に、中国は必ず戦い続けること。第二に、長引くことで、国際情勢が変化して中国に有利、敵国に不利になる時が必ず到来すること。（中国抵抗侵略者战争的最后胜利也一定要依靠两件事，第一，中国必须继续作战；第二，在这漫长的时间中，国际情势转变对中国有利，对其敌人不利的时候一定会到来的。）」と言った。1942年2月19日（講演 No.218）の「中国は戦う同盟国として」でも同様のことを話している。この言葉は、今は苦しい時期ではあるがいずれ必ず国際情勢は中国に有利になる、と中国国内に向けて勇気と希望を与えるものでもあると考えられる。

⑤為世界作戦，為民主国家作戦

胡適はよく講演で、中国は世界のため、民主国家のために戦っていると話した。例えば、1937年10月1日（講演 No.9）の「極東衝突の背後にある問題」では、「中国はある意味では全世界のために戦っていると言える（所以中国在某种意义说来是为整个世界作战的）」と言った。1938年8月（論文第5）の「What Can America Do in the Far East Situation?」では、「我々は世界のために戦っている、少なくとも民主国家のために戦っていると言える（我们这次可以说是为世界作战，至少是为民主国家作战）」と論じた。1939年12月5日（講演 No.136）の「中国の現情勢」（日本語訳「支那の現情勢」、英文原題 The Present Situation in China）の最後で、胡適は「中国はこの三十ヶ月来、文明と平和を愛する世界のために戦っている。これこそ中国の抗日戦争の大局的に歴史的な意義である。（中国在这三十个月来，可以说是为文明和爱好和平的世界作战。这是中国抗战更大的历史意义。）」と締め括った。この「為世界作戦，為民主国家作戦」は、中国の抗日戦争の意義を世界に向けて発信したもので、中国の抗日戦争は決して一地域の紛争ではなく、世界のための戦いだと主張している。

⑥民族生存・抵抗侵略

胡適が1937年9月から国民使節として、また1938年9月からの駐米大使として、アメリカで行った講演の中で最も多く話した言葉がこの「民族生存」と「抵抗侵略」であった。例えば、1937年9月26日（講演 No.2）の「支那抗戦の意義と将来」では、「第二次上海事变」（1937年8月13日）の中国兵の「全部隊が犠牲になっても一人として後退するものはなかった」という

戦いぶりを、「これは困苦と犠牲の中から生まれてきた民族生存の精神である。我々は全世界に我々の生存を求める強い精神を知らしめることができる」と称賛した。1937年10月1日（講演 No.5）、コロンビアラジオ局で放送した時に、「中国人民は目下、生存防衛のために侵略に抵抗している（中国人民目前为保卫自己抵抗侵略）」という状況を伝えた。1937年11月13日（講演 No.9）の「極東衝突の背後にある問題」で、「中国の抗日の感情と行動は、日本の侵略への憤慨と拒否の現れである（中国抗日的情绪和行动就是愤恨和抗拒日本侵略的表现）」、「私が中国は生存のために戦っていると言うのは、決して大げさな言い方ではないのだ（所以我说中国为生存而战并不是夸大其辞）」などと言った。胡適は繰り返し、中国は民族の存亡のために日本の侵略に抵抗していることをアメリカの国民に訴えている。

⑦米国の国際的リーダーシップ

胡適は、1937年10月1日（講演 No.5）、コロンビアラジオ局で放送した時、アメリカ国民に、アメリカが国際的なリーダーシップをとって戦争を止めさせ、侵略を阻止することを、とても期待していると訴えた。また1940年10月24日午後（講演 No.160）の「Saving Democracy in China」では、未来の国際機構はアメリカがいなければ失敗する、とアメリカのリーダーシップに強く期待した。

⑧日本の侵略行為

胡適は、講演の中で日本の侵略行為について多く語った。例えば、1937年11月13日（講演 No.9）の「極東衝突の背後にある問題」で、「（1931年9月18日の満州事変以来）六年の間、日本は一寸を得ればさらに一尺進もうとするように、食欲に飽きることも無く、ユーラシア大陸の五分の一の中国全土を占領するまで止められない勢いである。（那六年期间日本得寸进尺，贪求无厌，非达其占领等于欧陆五分之一的中国全部，势难停止。）」、「1932年正月、日本軍は上海に侵攻し、40日戦い、死亡者12万人、損害額4億ドルと推計される。（1932年元月，日军进攻上海，作战40天，死亡12万人，毁坏财产估计为4亿美元。）」などと言った。1939年8月10日（講演 No.119）の「中国抗戦の展望」で、「日本軍の南京大虐殺や各地の占領地区の人民を毒害する行為に現れた道徳喪失の事は強調したくないが……（…也不想强调日军在南京大屠杀和各地毒害沦陷区民众中所表现道德沦丧的事）」などと言うように、日本の侵略行為を如実にアメリカに訴えている。

四、胡適の講演活動の分析

胡適が、国民使節および駐米大使として1937年9月23日から1942年9月18日までに行った講演は、確認できる限りで236件あった。講演内容を基にまとめられた雑誌掲載論文は35篇あり、それ以外に、論文のみのものが34篇確認できる。

1938年7月11日に Port Arthur で行った演説で、「私はアメリカにいた9ヶ月の間、他の成

果は無いが、ただ「無為」を努めて行うことしかできなかった」と言っているように、胡適が国民使節としてアメリカに滞在したのは実際は9ヶ月間で、その外交活動は主にアメリカ社会に中国の抗戦状況などを伝えるための活動であった。その9ヶ月で行った講演件数は96件、その後、帰国途中(1938年8月)に経由したイギリスでも4件講演を行っているのも加えれば、都合100件となる。特に1938年1月25日(講演No.19)からアメリカを離れる1938年7月11日までに集中的に講演活動を行っている(78件、のべ84回以上)。例えば、1938年3月1日の日記では1月24日にニューヨークを出発してからここまでの旅程を10600マイルと計算し、3月16日の日記ではここまでの51日の行程で56回の講演と計算して、講演の地点と回数を表にしている。翌3月17日の日記ではこの度の講演が57回目となると記している。2ヶ月足らずの間に57回の講演をこなしたのである。

1938年9月に胡適が駐米大使に着任してからは、外交活動は広範囲に及び、蒋介石から与えられた任務は主に3つあり、1)中立法、2)財政援助、3)軍用品の日本売却阻止であった。胡適がその任務を精力的に努めながら、1940年6月26日に宋子文がアメリカに来るまでに行った講演件数は56件で比較的少ない。ただし途中、体調を崩して1938年12月5日から77日間の入院生活を送っていた(講演No.107を参照)。大使就任の1938年9月からの1年9ヶ月間で行った講演は、国民使節としての1年間の講演活動より44件少なかった。しかし、胡適にあまり協力的ではない宋子文がアメリカに到着してからは、蒋介石から与えられた任務を行うのが不自由になったため^{*3}、また講演活動の方が多くなり、(講演No.157の1940年9月18日以降)1942年9月大使離任までの約2年間の講演件数は、80件を数える。例えば、胡不帰は「1940年10月下旬、先生はアメリカ東部ニューヨーク、ボストンなどの各都市で広範囲の旅行演説を行った。」(胡先生傳 p.107, 年譜五 p.1710)と云う。また1942年5月17日、胡適は翁文灝と王世傑に手紙を書き、その中で「今年は、体力気力がやや衰え、また一万六千マイルの旅程で、講演は百余回、結構疲れました。6月以降、やっと少し休めそうです。私はこの3年間一つのweekendもなく、一つの夏休みもありませんでした。この夏は数日休まざるをえないと思います。」と云っている(年譜五 p.1777)。したがって、この年(1942年)実際には5月までの半年足らずで百回余りの講演をこなしており、筆者が確認した胡適の大使離任までの約2年間の講演件数80件は、実際の講演回数的一半ぐらいにしか当たらないだろう。駐米大使としての最後の2年間に、胡適が(精根尽きて疲れ果てるほど)最も精力的に非常に多くの講演回数をこな

^{*3} 胡適は宋子文との関係があまり良好ではなかった。例えば、1940年8月15日の日記で「私が当初、政府に子文を派遣してほしくなかった理由は、子文が全く辛抱強くなく、その上に手柄を立てる野心があつて、もしこちらに来てから大きな手柄を立てることができないなら、きっと大きな怨恨になると分かっていたからである。」と云う。また1942年5月19日の日記では「宋子文が部長になって以来、(去年12月以来)彼は、私に国内からの電報を一つも見せてくれない。」などと云う。

したであろうことは想像に難くない。1942年9月8日、行政院国务會議決議で駐米大使胡適の辞任が許可され、魏道明が後任となった。1942年9月18日、胡適は午前11時に双橡園(大使館)を去り、ワシントンを離れた。

胡適の講演の対象者は、様々な層に及ぶが、国会、州議会などの政治界の要人、銀行リーダーなどの商業界の要人もいれば、市民団体、宗教団体、中国の抗日戦争の支援団体などの一般市民もいる。新聞記者、ラジオなどのメディア関係者や、在米の中国人や中国学生もいる。また、大学教員や大学生などに向けて行なったものが比較的多い。アメリカ国民向けのラジオ放送は少なくとも16件はあった。

胡適が講演を行った場所は、主にアメリカの東海岸と西海岸に分布しているが、特に、ニューヨーク、ワシントン、ミシガン、カリフォルニア、ペンシルバニア、マサチューセッツが多い。また、カナダも西から東まで広範囲に及ぶ。

講演の内容は主に、①九国条約(世界新秩序、国際新秩序、新国際主義、新世界道德)、②自殺愚行、③福奇谷作戦(Valley Forge)、④苦撑待变、⑤為世界作戦、為民主国家作戦、⑥民族生存・抵抗侵略、⑦米国の国際的リーダーシップ、⑧日本の侵略行為、という8つのキーワードまたは話題に重点に置いている。

(いの えくん・言語文学専攻)